

コミュニケーション力が問われる時代だからこそ 日本文化をよく知る事が大切

生涯学習開発財団理事長 松田妙子

昨年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年も引き続きよろしくお願いいたします。

今年には生涯学習開発財団の設立30周年という、一つの節目を迎えます。設立当初から一貫して唱えてきたことの一つは、いくつになっても社会との関わりを持ち自己を確立していくということ。社会が大きく変動していく中、自分が社会に対して何ができるか、そのために何を学ばいいのか、見つけていくことが大切です。

1954年に私が渡米し、アメリカのテレビ局NBCでキャリアをスタートした時、日本人はほとんどおらず、異文化コミュニケーションの大切さを実感しました。同

時に日本のことを世界に知ってもらいたく、番組や私的交流を通して日本文化を紹介しました。

よりいつそう国際化・多様化していく今後の日本を考えると、私が50数年前に体験したのと同じようなことが、すべての日本人と日本社会に起きるといえることです。そこでコミュニケーション力が重要と言われるわけですが、自分や日本文化をよく知り、他者との違いを理解することが、コミュニケーションには欠かせません。引き続き、日本の良き伝統文化継承の大切さを、いろいろな形で発信していきたいと思えます。

昨年11月、まなびピア2012関連事業として、「生涯学習社会とコミュニケーション」と題する講座を、財団協賛会員のワークショップデザイナー推進機構さまのご協力により開催しました。(本誌P4〜10)。その講座を通して、コミュニケーションの大切さはもちろん、正解のない問題に対して皆の納得解を出す「分かちあう」という学習観と、そのアプローチとしてのワークショップはとても新鮮に感じました。

本年は、この講座をシリーズ化し、3回の開催を予定しております。今後の生涯学習に取り組む方々にとって、学ぶ側であっても、教える側であっても、いろんなヒントが得られる場になるはず。ぜひご活用いただきたく思います。



上写真撮影：桐島ローランド



子ども時代から家族同様に仲がいい桐島ローランド氏と。